

COLUMN: みんなに知ってほしい! ヘアドネーション

長谷川 翼 (今福教室)



皆さん初めまして、今福教室所属の長谷川翼です。まず、簡単な自己紹介をさせていただきます。僕は大阪国際大和田高校出身で、現在は関西大学の社会学部に在籍しています。社会学部は実社会

で起きているさまざまな問題を自分で見つけ出し、解決策を考える学部です。

そして、僕が見つけた問題は癌や白血病、不慮の事故で頭髪を失った子供達です。髪を失い、気を病む人も多いそうです。

そんな問題を解決するのがヘアドネーションです。ヘアドネーションとは31cm以上に伸ばした髪をカットして、その髪でウィッグ(かつら)を作成し、頭髪を失った子供達に無料で提供する活動

です。

僕がヘアドネーションを知ったのは、美容師さんに髪を伸ばしたいと相談している時でした。最初は髪を伸ばすついでに挑戦して、飽きたら諦めたらいいやと考えていました。しかし、ヘアドネーションについて調べるにつれて、多くの人が苦しんでいるにも関わらず、協力している人が少ないと感じました。とくに男性の提供者が少ないと感じました。原因は男性は短髪であるべきという固定概念だと思えます。

実際、僕自身髪を伸ばし始めてから多くの人に「女の子みたいだ」と言われました。

この発言をする人は悪意はなく、おそらくヘアドネーションを知らなくて言ってしまったのだと思います。これをきっかけに僕はヘアドネーションを多くの人に知ってもらうために絶対にやり遂げようと思えることができました。

現在、髪を伸ばして半年ぐらい経過しましたが、まだまだ提供できる長さには達していません。

長い髪を鬱陶しく思う方もいらっしゃるかもしれませんが、ご認識いただけると幸いです。この場をお借りして、ヘアドネーションを知っていただくと僕にとってとても幸いです。社会では僕も含めて色々な問題で困っている方がたくさんいらっしゃいます。実は皆さんのちょっとした行動で助けられる人々が大勢存在するの事実です。皆さんも大きくなった時に、解決できそうな問題にチャレンジしてみたいかでしょうか?最初は軽い気持ちでもいいと思います。僕も最初はそうでした。でも、やっていくにつれて困っている人たちの気持ちや状況の理解が深まり、少しでも貢献できればという思いが自分の中で育ってきたのです。自分達のちょっとした行動が困っている人たちの貢献になるのなら、これはやり遂げるべきだと考えました。皆さんも機会があればぜひとも一度チャレンジしてみてください! よろしくお願いたします。



マナロのちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE マナロ 恭子 (今福・関目教室)

女子の皆さん、いい恋愛をしてください♡

4月~7月にかけて『M愛すべき人がいて』が放映されていましたね。これは浜崎あゆみのデビュー秘話と、彼女のデビューのきっかけをもたらしたエイベックスのCEO松浦勝人との大恋愛から別れまでをもとにした小説をドラマ化したものでした。私も何となく見ていたのですが、何年前にカイチの講演会に来ていただいたノンフィクション作家の小松成美さんが二人のインタビュー取材をもとに書かれたものだとこのことを知り、小説を読んでみたいくなりました。

ドラマでは、登場人物など、小説の中身とは全く違い、個性的な俳優さん達ばかりで面白おかしく描かれていたのですが、小説の方は悲し切ない恋愛物語になっています。どこまでが事実で、どこかがフィクションなのか誰にも分かりませんが、浜崎あゆみが手掛けてきた歌詞は、自分の身を滅ぼすほど愛した元恋人へ向けたラブleterだったこと、デビューまでの様々な困難も彼が思い描く歌手になりたいという思いだけで乗り越えてきたこと、そして別れてからも20年もの間、彼のことをずっと思い続けていたことを知り、浅はかですが、同世代ということもあり、自分の青春時代と重ね

合わせて共感し、しばらくの間浜崎あゆみの歌詞がずっと頭から離れませんでした。

私も同じ頃(ちょうど二十歳の頃)、ボランティアをしていたフィリピンで出会った彼と大恋愛をしていました。彼は小学校卒業後から大学卒業までずっと神学生であり、ボランティア活動後は神学校に戻り神父を目指すはずでした。しかし、私と出会ったことで神学校には戻らず就職する道を選びました。ただ、私はボランティア活動後、日本に帰ってしまうので、そこから遠距離恋愛が始まりました。当時は一家に一台パソコンがあるわけでもなく、スカイプやラインもなかったので、月に一度高額ですが国際電話ができるだけでした。それでも年2回は私がフィリピンを訪れ、母親同士は贈り物を交換する仲になり、彼の親は親戚達に私のことを息子のフィアンセだと紹介するようにまでなりました。しかし、なかなか会えないことから、当然「別れ」がやってきます。

10年以上も私は彼のことを忘れられないでいました。その間にも私は他の人と恋愛をしました。が、心の奥底には彼の幻影がいつもありました。私はただ、今度どこかで出会ったときに、「私はこ

んな大人になったよ」と誇れるような自分になるため、ただ、その思いだけを胸に、やりたいことや、思ったことを実行に移し、人生の色々な困難にも耐えてきました。今ある幸せな家庭も、あの時の「別れ」から色々なことを乗り越えて勝ち取ったものだと思っています。

中学生の皆さんに何を伝えたいかというと、恋愛は私達にたくましい原動力を与えてくれるということです。「自分のことを好きだと言ってくれる人がいるという自信」「好きだと言ってくれた人が自分を励ましてくれた言葉」などが、これから先の人生で様々なことを乗り越えていく力となっていきます。だから、皆さん、良い恋愛をたくさんして、全力でその人のことを好きになってください。片思いでもいいんです。そして温かい気持ちや、途方もなく哀しい気持ちをいっぱい経験してください。そうして自分が経験した恋愛を糧に、たくましい女性になってください。ちなみに私は中3の時にカイチ(当時は今福教場といいました)の数学の先生を好きになり、その先生に褒めてもらいたい一心で数学の勉強を頑張っていました。卒業の時にその先生が私にかけてくれた言葉を今でも覚えています。「恭子はな、思ったことや、やりたいことを何でもすること。恭子なら何でもできる」この時、「お前なら何でもできる」と何か認めてもらえたような言葉をかけてもらったのは、この先生が初めてでした。成績が上がったどうかは…記憶にございませんが(笑)。



生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

頑張るのは今ここ!
みんなで夏期講習をがんばろう。August 2020
Vol. 95
毎月10日発行【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラトWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722
城東区成育 5-22-10-2F
TEL.06-6786-1008
【エニグマ】
中央区谷町 9-4-5-3F
TEL.06-6777-1563【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467
【カイチ予備校】
城東区今福西 1-10-17
TEL.06-6935-2220
【万緑会】
天王寺区上本町 6-9-10-3F
TEL.06-6772-5011

高木 秀章(塾長)

三密を意識しながらも、通常授業が始まり、ようやく本腰を入れて指導ができるようになったと思いきや、コロナ感染者が急増し不穏な雰囲気です。近くでも感染する方が出るようになり、コロナの脅威が確実に近づいている感覚もあります。

教室の生徒達とはいうと、様子に大きな変化はありませんが、全体的な学習の遅れ、これは進路の遅れもありますが、やはり3カ月の休校期間を取り戻すために学校・塾ともに進路が早くなっている分の理解の遅れが特に気になります。また、長い休校期間から学校が始まり、体調を崩したり精神的に不安定な生徒も散見されます。

塾内ではいよいよ夏期講習に入っていますが、夏休み期間の短縮のため、講習時間を全体として約10%減、中学3年生にはできるだけ優先的に時間を確保する形で実施しています。ただ、夏休みの受験生の学習時間が減る中、講習の時間数確保を行っていますので、学校や塾の宿題、また知識を定着させる時間が確実に圧迫されます。カイチではできる限り受験生の大変な状況を理解して指導を進めていますが、受験は待ってられません。

受験生にとっては、試験の夏になりますが、秋から冬にかけ、おそらくインフルエンザとコロナウイルスが区別のつかない状況で蔓延し、ある程度の期間の自宅待機や、再び一斉休校という状況もあり得ます。もちろん塾では精一杯の対応を考えていきますが、それらを考慮するとやはり、夏の間をしっかり受験勉強を進めることが欠かせません。教室では夏休み中にクリアする「やり切りテスト」が用意されていて、先生達が一覧表でチェックしていきます。このやり切りテストさえクリアすれば、春先の学習の遅れはすべてクリアされ、夏期講習最終日の模擬テストの偏差値も必ず上がります。(例年の生徒は平均で2~6偏差値を上げます)

「なんで自分たちの受験の時に…」と、不平不満を言いたい場面もあるかもしれませんが、全国の受験生も状況は同じ。「絶対にコロナに負けない。必ず第一志望にみんなで合格する」という思いを持って、みんなで、1日1日を大切に頑張っていきましょう。

最近「ケーキの切れない非行少年たち」(宮口幸治著)を読みました。少年院に入っている子供達にケーキを均等に切るように言う、殆どの子供達が、右の本表紙のような切り方をして均等に切ることができなかったそうです。

彼らは「見る・聞く・想像する」などの認知機能が普通の子供に比べて低く、実は物事を正しく見たり、聞いたりができている。そのため彼らは多くの挫折を経験し、社会は彼らにとって生きづらい場所になっていると児童精神科医である作者は述べています。「反省しなさい」といくら言っても反省することの意味が理解できない、反省以前の子供達。

彼らに必要なのは、精神論や根性論ではなく、物事を正しく見聞きするための

認知機能を向上させるトレーニングで、本書ではコグトレを紹介し、このトレーニングで教え合い自信を取り戻していく子供達の様子を書いています。

認知機能を鍛えるコグトレの教材を右に載せておきました。実はパスカルでやっている能力開発問題にとても近い教材です。パスカルキッズでは、パズルや能力開発プリントで認知機能をしっかり育成した上で、それらを活用して理解する「数や言葉」を指導するよう考えられた教材です。

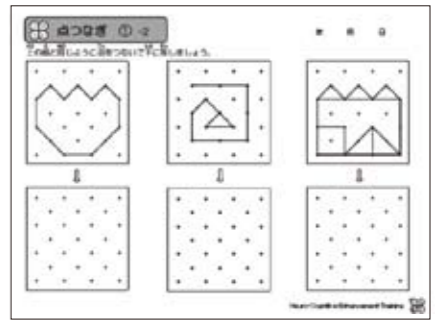
この本の中でも取り上げられていますが、能力開発プリントで重要視している空間把握能力は単なる物と物の距離を把握するだけでなく、人との距離を測る社会性とも大きく関係する力です。

認知機能は、学力や社会性の基盤となる力なのです。

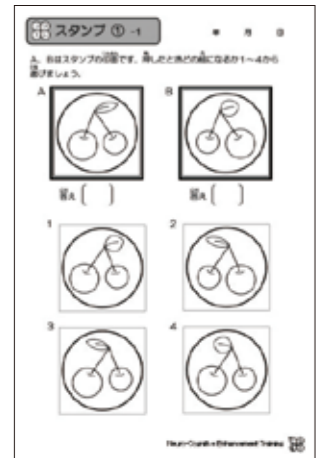
文科省の教育指導要綱では、非認知能力「やり抜く力」「自立」「協調」「やる気」の重要性が強調されていますが、これらが育つ前提には、物事を正しく理解する認知力「見る力」「聞く力」「平面の把握」「空間の把握」「推測」「関係性理解」などが不可欠です。

これらは、パスカルの能力開発だけでなく、そろばんや英語や読書など様々な自宅学習でも十分、身につく力です。

「学ぶことは生きること」
カイチも子供達の学ぶ場を守っていきたくと考えています。



▲コグトレプリント「点つなぎ」



▲コグトレプリント「スタンプ」



Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

環境の変化に対応しながら、今年も夏期講習頑張っています!

小幡 翔太郎 (関目教室)

皆様、こんにちは。長雨の時期を経て、今年も夏期講習に突入しました。この記事を書いている7月25日現在、まだ梅雨明けを迎えず、ジメジメした天気が続いております。また一説では、残暑の厳しい夏になることが予測されているそうです。自分を取り巻く環境が厳しくなった時にこそ、普段からの生活習慣が大きく影響してきます。早寝・早起きを心掛け、体調を崩さないように気を付けていきたいところです。

「コロナ以外で記事を書こう!」と決心して書き始めたのですが、触れずには話を進められないほど、私達の生活はこの新型のウイルスに大きく影響されています。3月から5月にかけて(中学部は6月のテスト対策期間まで)のZOOM授業に始まり、今現在は「座席間隔をとる」「換気を行う」「スタッフ、生徒含め、全員のマスク着用」「生徒の入れ替え時に毎回消毒を行う」などの対策を行いつつ、慎重に授業を実施している状態です。長い戦いになりそうですが、生徒の皆さん、一緒に乗り切っていきたいと思います!



▲普段からパワフルですが、夏期講習になるとさらにスイッチが入る!

パスカルキッズのクラスでは、一人ずつ座席を離しての指導を行っています。ZOOM上で行われたマナロ先生による無料講座において、私はなぜか「カップ」として登場しました。全身緑色で、3.6リットルもある弁当を食べ、時にはサメと戦って食べたりしていたそうで、今も数名の生徒には「カップ」と呼ばれています。そのおかげで小1の子が「かさ」の勉強に興味を持ち、お風呂に色々な容器を持ち込んで体積を測っていたりしたそうなの



▲パスカルクラスの様子。座席を離して授業を行っています。

で、マナロ先生恐るべし、という感じです。(何とか「イケメン先生」という名前を定着させたいのですが、誰も呼んでくれないどころか、冷たい目で見られています…。)



▲珠算クラス、真剣そのもの!

また、新年度から新たに井塚先生、辻本先生、吉田優哉先生、中村佳穂先生が加わり、ZOOM授業のパワーポイント作成や、個別授業、集団クラスの研修にと大忙しです。先輩である、集団クラス担当の川田先生と吉田樹生先生、個別クラス担当の武田先生・島先生が良い手本となり、ニューフェイス達を引っ張ってってくれています。



▲授業以外の地味な作業も立派な仕事です。

中学部では、期末テスト前に9時間自習を実施しました。今回は、三密を回避するために古市教室の校舎も借りての実施でした。初の9時間自習となった中1生達に感想を聞くと「思ったより一瞬で終わった!」「一人じゃなかったからあんまりしんどく感じなかった!」と、タフな返事が返ってきました。中間テストが中止になったり、3時間自習の一部をZOOMで実施したりと、大変な中で行われたテスト対策でしたが、初のテスト期間を終えた中1生の顔つきは、少し大人になったように感じます。

今年の夏期講習は、コロナによる春先の学校休校の影響を受け、学校の授業がある中でスタートを切りました。中3は例年ならば、7月末に学校が夏休みに入るのに合わせて昼からの授業がスタートするのですが、今年は8月7日までは学校に合わせて夜の時間帯に夏期講習を実施、さらにお盆休

みを短縮しての過密日程になっています。そんな中ですが、中3は各教科の知識事項定着のためやり切りプリントを進めています。授業のない日に自習に来る生徒もおり、頼もしさを感じています。一方で、部活の大会も縮小・延期・中止を余儀なくされるケースが多く、引退の時期や形も様々に変化し、気持ちのメリハリをつけるのが難しそうだと感じています。今年の中3生の皆さんが、数十年に一度の大変な時期に受験を迎えているのは確かです。もやもやした気持ちは、一人で抱え込まずに愚痴として吐き出してきてください。私達も全力でサポートするので、ともにこの難局を乗り越えましょう。来年の春、「自分はやりきった!」と胸を張れるよう、今この瞬間を大事に過ごしてほしいと思います。



▲9時間自習での一コマ。みんなで弁当を食べて頑張りました!



▲みんなが帰ってから、夜夜夜な進捗チェックをしています…。



Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

『心理学とカイチの考え方』

岸田 圭滋 (今福教室)

夏期講習が7月20日から始まりました。コロナの影響で夏休みが減っている中、限られた時間の中で効果を最大限に発揮させるためにはどうすればよいかを常に考えています。そこで、今回はキッズ分野の指導方法や、学習部の定期試験対策などにも、心理学の考え方が取り入れられていることに注目しました。

「心理学」という学問をよく耳にする機会が増えたような気がします。また、私達の生活の中でも心理学の考え方が使われていることが多々あります。大学や短大、専門学校などでも「〇〇心理学部」「〇〇心理学科」というように身近に学べる機会が増えました。心理学といっても、行動心理学や社会心理学、発達心理学や認知心理学など、種類は多岐にわたります。私も心理学をテーマにした雑誌や書籍があれば、自然と手に取るほど興味があります。社会に出て「塾講師」という職業に就き始めた20代後半には教育心理学の分野にのめりこむほどでした。しかしながら「習うより慣れる」ということわざにもあるように、学問の中の理論だけでは教育の現場では対応できないことの連続で、戸惑った苦い記憶もあります(笑)。

最近1冊の本に出会いました。『図解 心理学用語大全』です。心理用語がコンパクトにまとめられています。イラストもたくさん使われていて、イメージしやすい作り方も大きな特徴です。この本の中から3つの興味深いテーマを紹介いたします。

1 ピアジェの「知能の心理学」

ピアジェという心理学者を紹介いたします。教育業界ではピアジェ理論とも呼ばれています。娘の幼稚園を探すときに、この理論を取り入れている幼稚園があったことを思い出しました。妻は元幼稚園教諭で、この分野には詳しいので、とても助かりました。教育方針に取り入れている幼稚園も多いと聞きます。さて、このテーマには「認知発達理論」と「自己中心性」があります。「認知発達理論」とは、簡単に言うと子供の思考は4段階に分かれているという考え方です。また、2〜6、7歳ごろの第2段階では、自分だけの立場から物事を見る「自己中心性」があると考えました。つまり、自分と他人がはっきりと区別できないため、他人の視点でとらえることができず、自分の立場からだけでしか見たり考えたりできません。



▲パスカルの4択問題「後ろから見るとどれ?」

『パスカル☆キッズ』の教材には能力開発というページがあります。例えば、あるイラストを後ろから見ると、どのイラストになるかを4択で選べる問題があります。じっくり考えながら正解にたどり着く子供達を見ていると、感心することも少なくありません。つまり、自分以外からの視点をイメージすることは、最終的には自分以外の人からどう感じているかを考えることにもつながるといえます。他人の気持ちを考えるということは、自分だけじゃればよいという自己中心的な考え方を防ぐというトレーニングにもつながるかもしれません。「コロナはもう落ち着いただろう」「みんなが街に出たので自分も出よう」という気持ちのゆるみで、子供ではなく大人から感染者が再び急増し始めていることは何を意味しているのでしょうか。改めて考えなければいけないかもしれません。

2 デシの「外発的動機づけ」と「内発的動機づけ」

次にデシという心理学者を紹介いたします。目的を達成するために、どのような方策と効果があるかを考えました。まず、「外発的動機づけ」とは、例えばこうです。『掃除をする→ごほうびを与える(外的要因)→掃除の回数を増やす』という流れです。これは、よくご家庭でもなさっていることかもしれません。「小テストで満点を取る→お菓子を買ってあげる→また満点を取るために頑張る」といった感じです。しかしながらこの考え方の注意点は「お菓子」を目的にしてしまうと効果がなくなるということです。「お菓子がもらえなくても満点をとるように勉強するのよ。」というセリフを投げかけた途端、急に勉強する気がなくなったという経験はないでしょうか。ごほうびだけが目的になると、やがて勉強自体に興味なくなることがあるのです。

ここで登場するのが「内発的動機づけ」です。知的好奇心(絵を描くことやパズルなど)があれば、外的要因(ごほうび)がなくても行動は長持ちするというものです。これは勉強や習いごと以外でも十分トレーニングができるらしいのです。次の日の学校の準備を前日に済ませておくことや、毎朝決まった時間に起きるなどの「習慣」が大切そうです。習慣になるまでは最低でも2週間意識することが必要らしく、それを超えると習慣になる準備ができ始めるらしいです。中学生の定期試験対策では『スケジュールシート』というアイテムを使います。1週間ごとに定期試験の勉強がどれだけ進んでいるかを自分で把握・確認し、毎日何をしたかを記録していくという代物です。これを確認してみても、十人十色です。内容が甘ければ指導しますし、しっかり書けていたら褒めます。特に今年の中学1

年生は、初めての定期試験が1学期期末試験というタイミングだったので、丁寧に書き方を教えました。回を重ねるごとに、われわれが口うるさく言わなくても習慣化できるようになればいいですね。『三日坊主』という言葉がありますが、習慣化するには努力と意識が必要なのですね。私も毎年年末になると手帳を買うのですが、なかなか続いたためしがありません(笑)。

最後にデシという心理学者を紹介いたします。集団心理学という学問の分野もあり、この分野は社会でも大いに活用されています。中でも興味深いものを2つ紹介します。1つ目は、「集団力学」です。個人で決定するより集団で決定したほうがハイリスク・ハイリターンな決定を下すことが多いことがわかりました。きちんとした目的と目標を持ち、高校を志望することは大切です。「〇〇さんが◇◇高校に行くそうなので、私もそうします。」という人たにたまに会います。どの高校に進学したいかを決めるのは他人ではなく自分です。仮に◇◇高校に進学したとしても、両極端な結果になる可能性が高くなります。まさに、ハイリスク・ハイリターンです。

2つめは、「集団的雰囲気」です。リーダー(指導者)の性質によって、集団的雰囲気が左右されることがわかっています。目標を達成できなければペナルティを与える専制的な指導者がいたとします。1人がミスすれば、その1人を集団で責め、独創性や自主性、助け合いの精神が著しく低下します。ネットで誹謗中傷の書き込みをしてしまうという心理に近いです。しかし、これは時と場合によると思います。クラスの雰囲気が出来上がっている、1つの目標に向けて一丸となって取り組むときは効果があるでしょう。運動会でのクラス対抗リレーや大縄跳びなどの団体種目がそれにあたると思います。一方、何かの壁にぶつかったときにアドバイスを与えたり、相談にのってくれる民主的な指導者がいたとします。1人のミス責めるのではなく、どうすればミスが減るのかわかるのかを集団で話し合い、自主的に考え、決めようとしていきます。そうすると、助け合いの精神が生れます。心理とは心の働きや精神の状況を意味する言葉です。われわれ教育に携わる者として、つねに考えているのは子供達の気持ちです。授業中の表情が、いつもと違うというだけで、われわれにサインを出しているのです。また、厳しく叱ることもあります。頭ごなしに叱るのではなく、きちんと理由をつけて叱ることが大切です。頭ではわかっているのですが、自分の娘に対してつい声を荒げることがあります。ああ、きつく言いすぎたな…と反省することもあります。次の日にフォローをして、私から謝ることもあります。保護者の方々もお子様を勉強を教えられている際にけんかになることはありませんか。そんなとき、いつでもご相談ください。第三者の立場からお子様言葉に言葉を投げかけます。私もまだまだ未熟な父親ですが、保護者の方々の気持ちは理解できます。これからもカイチの教育にご協力ください。

3 レヴィンの「集団力学」と「集団的雰囲気」

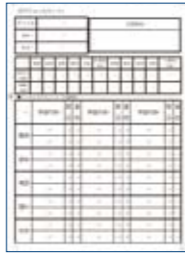
最後にレヴィンという心理学者を紹介いたします。集団心理学という学問の分野もあり、この分野は社会でも大いに活用されています。中でも興味深いものを2つ紹介します。1つ目は、「集団力学」です。個人で決定するより集団で決定したほうがハイリスク・ハイリターンな決定を下すことが多いことがわかりました。きちんとした目的と目標を持ち、高校を志望することは大切です。「〇〇さんが◇◇高校に行くそうなので、私もそうします。」という人たにたまに会います。どの高校に進学したいかを決めるのは他人ではなく自分です。仮に◇◇高校に進学したとしても、両極端な結果になる可能性が高くなります。まさに、ハイリスク・ハイリターンです。

2つめは、「集団的雰囲気」です。リーダー(指導者)の性質によって、集団的雰囲気が左右されることがわかっています。目標を達成できなければペナルティを与える専制的な指導者がいたとします。1人がミスすれば、その1人を集団で責め、独創性や自主性、助け合いの精神が著しく低下します。ネットで誹謗中傷の書き込みをしてしまうという心理に近いです。しかし、これは時と場合によると思います。クラスの雰囲気が出来上がっている、1つの目標に向けて一丸となって取り組むときは効果があるでしょう。運動会でのクラス対抗リレーや大縄跳びなどの団体種目がそれにあたると思います。一方、何かの壁にぶつかったときにアドバイスを与えたり、相談にのってくれる民主的な指導者がいたとします。1人のミス責めるのではなく、どうすればミスが減るのかわかるのかを集団で話し合い、自主的に考え、決めようとしていきます。そうすると、助け合いの精神が生れます。心理とは心の働きや精神の状況を意味する言葉です。われわれ教育に携わる者として、つねに考えているのは子供達の気持ちです。授業中の表情が、いつもと違うというだけで、われわれにサインを出しているのです。また、厳しく叱ることもあります。頭ごなしに叱るのではなく、きちんと理由をつけて叱ることが大切です。頭ではわかっているのですが、自分の娘に対してつい声を荒げることがあります。ああ、きつく言いすぎたな…と反省することもあります。次の日にフォローをして、私から謝ることもあります。保護者の方々もお子様を勉強を教えられている際にけんかになることはありませんか。そんなとき、いつでもご相談ください。第三者の立場からお子様言葉に言葉を投げかけます。私もまだまだ未熟な父親ですが、保護者の方々の気持ちは理解できます。これからもカイチの教育にご協力ください。

ここで登場するのが「内発的動機づけ」です。知的好奇心(絵を描くことやパズルなど)があれば、外的要因(ごほうび)がなくても行動は長持ちするというものです。これは勉強や習いごと以外でも十分トレーニングができるらしいのです。次の日の学校の準備を前日に済ませておくことや、毎朝決まった時間に起きるなどの「習慣」が大切そうです。習慣になるまでは最低でも2週間意識することが必要らしく、それを超えると習慣になる準備ができ始めるらしいです。中学生の定期試験対策では『スケジュールシート』というアイテムを使います。1週間ごとに定期試験の勉強がどれだけ進んでいるかを自分で把握・確認し、毎日何をしたかを記録していくという代物です。これを確認してみても、十人十色です。内容が甘ければ指導しますし、しっかり書けていたら褒めます。特に今年の中学1

年生は、初めての定期試験が1学期期末試験というタイミングだったので、丁寧に書き方を教えました。回を重ねるごとに、われわれが口うるさく言わなくても習慣化できるようになればいいですね。『三日坊主』という言葉がありますが、習慣化するには努力と意識が必要なのですね。私も毎年年末になると手帳を買うのですが、なかなか続いたためしがありません(笑)。

最後にレヴィンという心理学者を紹介いたします。集団心理学という学問の分野もあり、この分野は社会でも大いに活用されています。中でも興味深いものを2つ紹介します。1つ目は、「集団力学」です。個人で決定するより集団で決定したほうがハイリスク・ハイリターンな決定を下すことが多いことがわかりました。きちんとした目的と目標を持ち、高校を志望することは大切です。「〇〇さんが◇◇高校に行くそうなので、私もそうします。」という人たにたまに会います。どの高校に進学したいかを決めるのは他人ではなく自分です。仮に◇◇高校に進学したとしても、両極端な結果になる可能性が高くなります。まさに、ハイリスク・ハイリターンです。



▲スケジュールシート